

[エッセイ]

## ウィンナリートへのお誘い

秋篠 克美

ドイツ語を学ぶものは、幸せである。なぜなら、ウィンナリートを楽しめるからである。誰もが知っているようにオーストリアの首都ウィーンは音楽の都である。帝都であった時代、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シュトラウス一家そしてランナーなどが集い、競い合い、音楽の都としての地位を築き上げた。しかし、そうだからと云って *Ernste Musik* のみに目を集中してしまうと、素晴らしい宝物に出逢う機会を失ってしまう。*Unterhaltungsmusik*、つまり庶民の愛する俗謡も一流の地位を誇っている。それがウィンナリートである。ウィンナリートの定義は幅広い。シューベルトのリートからオペレッタのアリア、民謡モダンな流行歌そして果てはロック音楽まで、ウィーンで生まれた庶民に親しまれる歌がそう呼ばれるようであるが、中核を占めるのがウィーンのワイン酒場、つまりホイリゲで歌う唄、一般的にシュランメルンと呼ばれる音楽である。嬉しいことに、これらウィンナリートの半数がシュトラウス一家のワルツと同様、3拍子で歌われ、奏でられている。ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートだけがウィンナワルツの全てではない。我々は、ウィンナリートを通じて、さらに星の数だけの3拍子に出逢える。その中には何と、「BONSAI-WALZER」と云う日本人に嬉しいタイトルのワルツも作られている。YouTube で聴けるのでアドレスを下記に置く

<https://www.youtube.com/watch?v=xgwmM7dQCig>

ウィンナリートの歌詞の特徴を述べる。意外と恋愛の歌は少なく、むしろ酒好きの歌、ウィーン賛歌あるいはウィーンっ子であることを誇る内容が多い。またウィーンっ子は陽気になればなるほど「死」を語ると

云われる。そのせいか「死」がよく扱われる。加えて老人がテーマになる歌も多くある。でもそうだからと云って、若者には不人気なジャンルではなさそうである。

いくつか歌詞の例を紹介しよう。オリジナルはウイナ訛りで書かれているが、明確にするため標準である高地ドイツ語で変換させていただく。

Mein Stolz ist, ich bin halt ein echtes Wienerkind (Fiakerlied)

俺は生粋のウィーンっ子 それが俺の自慢だ

Und kommt es einmal zum Abfahren, und werde ich dann begraben,

あの世へ行く日も近い もうすぐ墓の下で眠るよ (Fiakerlied)

Wiener Melodien zauberhaft und schön in der ganzen Welt bekannt.

Und Wiener Frauen du kannst vertrauen, sind begehrt und sehr schament.

ウィーンのマロディー それは人の心を奪うほど美しい 世界中の人々の頭の中に入っている そしてウィーン的女性 賭けてもいいよ 引っ張りだこだしチャーミング (Wiener Melodien)

Mit einem Sport habe ich keine Freude, ewig schade ist um die Zeit und im Kino schlafe ich ein, denn für mich gibt es nur ein Wein (Wo vor dem Haus grüner Busch winkt)

スポーツは面白くない 時間の無駄さ 映画館に行っても寝てしまおう だって俺には そんなものよりワインが一番さ

Geht es einmal mit mir zu Ende, da mache ich mein Testament, es muß kein Eichentruchen sein, grabt mich in ein Faß ein

余命はあとわずか そろそろ遺言書を書かなくちゃ。オーク材の高級な棺桶はいらないよ ワイン樽にほりこんで埋葬してくれれば十分だ (Wo vor dem Haus grüner Busch winkt)

Wenn ich sterbe, möchte ich eine Reblaus wieder werden

死んだら 来世は 人間よりもワインのブドウの木に巣食うブドウ

ネアブラ虫に生まれ変わりたい (dieReblaus)

Wenn ich einmal schlecht aufgelegt bin, dann gehe ich zu einem Freund hin, der hat mich getröstet noch jede Stunde, und bin ich krank, macht er mich gesund! Wir sind beieinander jahrein jahraus, und er begleitet mich immer zum Haus. Ich spare mein Geld für ihn allein, meinen teuren Freund, den Wein.

むしゃくしゃした時 そんな時は慰めてくれる友のところへ行く 病気になっても彼は俺を元気にしてくれる 俺たちは年がら年中 切っても切れない仲さ 家に帰る時もいつも一緒さ 俺は彼のためにだけ金を使うよ。俺の大切な友 それはワインさ (Ja, ja, der Wein ist gut)

Ich bin ein echter Wiener, bei mir ist alles Humor, keine Sorge und Kummer kenne ich, keine Traurigkeit o na ! Nur lustig fesch und munter  
俺は生粋のウィーンっ子 ユーモアに満ちた面白い人間 悩みや苦しきなどは吹っ飛ばす くよくよしないよ 陽気で愛想よく快活さ (Ich bin ein echter Wiener)

Ein alter Wiener kommt ins Pfründnerhaus, er ist ein alter Greis, sein Haar ist silberweiß, er dudelt seine Tänze noch voller Humor  
年老いた老人が救護施設に行く よぼよぼで髪は真っ白 それでもユーモアたっぷりにドゥーデルンを口ずさみながら踊る (Ein alter Wien)

今 Ein alter Wien の歌詞の中で「ドゥーデルン」と云う言葉を述べた。時にしてウィンナリートはドゥーデルン (Dudeln) と呼ばれる歌唱法で歌われるときもある。ドゥーデルンは、一聴するとヨーデルのように聴こえるが、少し違いがあるようである。その説明をオーストリア政府観光局公式サイトより引用する「ドゥーデルンは、大きな音程幅を持って変化するメロディを、中間部を除き、胸声と頭声だけが聞こえるように歌うことである。歌詞はなく、代わりにそれ自体には意味のない音節

があるだけである。」と、1837年にヨハン・ガブリエル・ジーデルが定義しています。ヨーデルとの最大の違いは、ヨーデルが声だけで演じられるのに対して、ウィーンのドゥーデルンは、クラリネットやギターまたは、アコーディオンの伴奏が付く点です。ウィーンの叙情歌の中に組み込まれる場合も多く、そのために、通常野外で上演されるアルプスのヨーデルとは違い、ドゥーデルンは特にバーのような囲われた場所での上演が好ましいとされています。ドゥーデルンが事実上過去の歌の形式と言われ、2009年にウィーンの最も有名なドゥーデルン歌手のトルード・マーリーが亡くなった後、気高きドゥーデルンを歌う技は現在、アグネス・パルミザーノ、ティニ・カインラートやドリス・ヴィントハーガーといった歌手たちによって再び活性化されています。」

まあ、とにかくこのドゥーデルンに関しては下記の YouTube でお聴きいただくのが一番分かりやすい。アドレスを下記に置く。上記で紹介されたトルード・マーリーの声でお聴きいただきたい。

<https://www.youtube.com/watch?v=s6NS4wMWYUM>

ところで、このウィннаリートを本格的に楽しむにはどうすればいいのか？いろいろあるが、インターネットで楽しめる本場ウィーンのウィннаリートを啓蒙する Radio Wienerlied を推薦したい。URL は下記のとおりである。

<https://www.radiowienerlied.at/verlag.asp>

この URL を開くと Radio Wienerlied Sendung online の大文字が左上に見える。左方の項目の中の Sendung をクリックしよう。そうすれば、過去 17 週分の放送が聴けるサイトに到着する。1 回の放送時間は 1 時間。MC は二人のウィннаリート歌手が隔週ごとに担当している。Erich Zib と Crazy Joe である。クリックするとテーマ音楽が走り MC の語りが始まり、そして音楽が流れる。

Radio Wienerlied は音楽を届けるだけではなく、ウィннаリートの CD も販売している。私はすでに 40 枚ほどウィーンより取り寄せた。無料でダウンロードできる楽譜もある。

さて、最後にウィンナリートの最大の魅力について書く。

「ウィンナリートの最大の魅力」それはウィンナリートの殆どがウィーン訛りで作詞され歌われていることに尽きる。ジーツィンスキーが作曲した有名なウィンナリート「ウィーンわが'夢のまち (Wien, Wien, nur du allein)」は高地ドイツ語で歌われているが、このようなケースは稀である。英語やフランス語と比較して、でこぼこ道を走っている感じがするドイツ語ではあるが、ウィーン訛りになると、少し違う。ホアとした感じで柔らかくなり、実に音楽的な言語でその魅力にはまってしまう。私は、ウィーンには観光客として行ったことはあるものの、住んだことも、留学した経験もなく、従ってウィーン方言の専門家ではないが、私がウィンナリートから知り得た限りのウィーン訛りの特徴を少し述べる。まず、「ウィーン」本来のその街の名称からそもそも訛っている。「Wien」「ヴィーン」は本場では「Wean」と書かれ、発音も「ヴェアーン」となる。従って「Wiener」は「Weaner」、「wienerisch」は「weanerisch」となる。「Ich」は「I」「Wir」は「Ma, MiaあるいはMir」「seinの活用形istやsindは「san」となる。発音もウィーン流がある。「A」は殆ど「ア」と発音されず「オ」になる。「Ja」は「ヨー」、「Jahr」は「ヨアー」、「hat」は「ホット」、「machen」は「モツヘン」となる。発音通り「Jo」、「Johr」、「hot」、「mochen」と明記されるときもある。「Arbeit」や「Vater」はウィーンの特徴的な訛りが加わり「オアバイト」「フォッター」となる。「L」は頭文字や固有名詞を除き「イ」となる。「Alt」は「アルト」ではなく「オイド」、「Stolz」は「ストルツ」ではなく「ストイツ」、「Walzer」は「ヴァルツァー」ではなく「ヴォイツァー」しかし「Alle」は「オイエ」とならず、何故か「オレ」と発音される。「Leute」や「heute」は「ロイテ」や「ホイテ」と発音されるように我々はドイツ語の授業で習ったが、ウィーンではそうならない。「レイト」や「ヘイト」と発音されるように聞こえ、「Leit」や「heit」と明記されるときもある。文法的にも規則通りではなく、他動詞の目的語は4格とならず3格になっていることも多い そのようなややこしいウィーン訛りではあるが、質問があれば、メールでRadio Wienerlied問い合わせれば、親切に詳しく教えてくれる。音楽の好きな人には、さらに新しい世界が拡がり、音楽の都、ウィーンの奥へさらに入って行ける嬉しいサイ

秋篠 克美

トである。